

医療器材部

Department of Medical Equipment

医療器材部長
坂井 義治



安全で効率的な 医療器材の供給をめざして

中央滅菌部門として、患者さんの診療に要する各種の器材および材料(以下器材という)の洗浄・滅菌、管理供給を行っている。物流管理では、SPDシステム(SPD: Supply Processing and Distribution)による医療器材の供給と、感染予防と器材に起因する医療事故防止の観点から安全で良質な医療器材を提供。医療器材の安全な取り扱いに関する研修、不具合品への対応も行っている。

医療機器管理部門では、3,000台近くの医療機器を中央管理。これらの機器の適正な保守点検、医療スタッフへの技術提供、教育を行うことで、医療機器の効率的運用と安全性の向上に努めている。

業務内容の特徴と実績

医療器材の洗浄・滅菌

滅菌センターは、看護師長1名、看護師1名と委託業者で対応している。洗浄については、2004年より歯科口腔外科外来の器械の一部と委託滅菌物(全滅菌数の9.05%)以外は中央化されている。手術器械は手術部で洗浄・組み立て(外部委託業者)を行い、滅菌は地下滅菌センターで行っている。

洗浄設備として、ウォッシュディスインフェクター単槽3台、チューブ洗浄機1台、超音波洗浄器2台、恒温槽装置1台、乾燥機3台、RO水装置1台、歯科用タービン洗浄注油装置2台を設置。滅菌設備は、高圧蒸気滅菌装置4基、エチレンオキサイトガス滅菌装置2基が稼働している。滅菌保証では、物理的・化学的・生物学的インジケータによる滅菌効果の検証後、滅菌物品の供給を行っている。

リユース品の洗浄・消毒後、セミクリティカルレベルでの供給は、増加傾向にある。2012年度開始されたNICU・北病棟2階の保育器、コットの洗浄・消毒・組み立て、MEによる点検後の供給は、232台/年となっている。2013年度開始されたペースメーカーコードの洗浄では、断線チェックも開始され、203本中8本を発見している。

医療材料の管理・供給

医療材料の供給は、供給センターにおいてラベル運用による供給・定数管理(月平均76,951個)を行っている。医療材料選定については1増

1減とし、事務部門主催により月1回の他職種合同の材料選定委員会で決定。必要時部署でのサンプリング、アンケート、メーカーによる説明会を実施している。棚卸は年2回供給センターと事務部門により実施し、材料定数単位で見直しを図っている。

2012年度に他病院での人工蘇生バックの組み立て間違いによる重大な事故が発生した事例から、当院では事故再発を防止するため、単回使用の人工蘇生バックを採用することとなった。常に医療安全管理室と連携し器材の選択・使用周知を行っている。

臨床工学技士による臨床支援業務

ME機器センターには26名の臨床工学技士が所属し、医療機器の保守点検、生命維持管理装置(人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺装置等)の操作を中心に、手術部、人工腎臓部、内視鏡部、心臓カテーテル室等で臨床支援業務を行っている。また、医療機器のトラブルや緊急手術に対応するため、当直・オンコール体制をとり、安全性の確保に努めている。

